

第 2 期中期目標期間（平成 3 0 年度～令和 3 年度）における評価結果

1 第 2 期中期目標期間における大項目評価

大項目	平成 3 0 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度 (市案)	見込み 評価 (市案)
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	4	4	4	4	4
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	4	4	4	4	4
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	4	4	4	4	4
第 4 その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためにとるべき措置	4	4	4	4	4

(参考)

	5	4	3	2	1
大項目 評価基準	中期目標を大幅に上回り、特筆すべき達成状況にある。	中期目標を達成した。	中期目標をおおむね達成した。	中期目標を十分達成できていない。	中期目標を大幅に下回っている又は重大な改善すべき事項があった。

2 第2期中期目標期間の各事業年度における全体評価

年度	評価結果（全体評価）
<p>令和元年度 （平成30年度の実績評価）</p>	<p>第2期中期目標期間の初年度となる平成30年度の業務実績に関する全体評価（総括）は、「中期計画の達成に向け、全体として計画どおり進んでいる。」とする。</p> <p>年度計画で定めた数値目標は一部未達成であるものの、技術相談、試験・分析等において、中小企業の課題解決につなげるなど、下支えに大きな役割を果たすとともに、研究開発についても、積極的に取り組んでいる。また、第2期中期目標において掲げたいずれの課題に対しても、速やかに取組を開始しており、大項目評価が全ての項目で「評価4 中期計画の実現に向けて、計画どおり進んでいる。」と判断したためである。</p> <p>特に、京都市産業技術研究所が全国でも先進的に研究開発を行っている「CNF複合材料」については、大手スポーツメーカーのランニングシューズに使用されたことに加え、新たな作風の京焼・清水焼の開発にも利用され、市内企業への普及もみられる。</p> <p>また、企業との共同研究においては、技術相談を受ける中から共同研究に発展し製品化に至った事例も出ており、市内中小企業の製品開発に寄与するとともに、そうした製品の中には、金属材料のリユースや食中毒の防止に貢献するなど、市民生活の安心安全に寄与するものもある。</p> <p>今後は、新規利用者数の増加、知的財産権を含めた研究成果の中小企業等への普及、研究会活動の活性化、自己収入の確保、市民への情報発信について、更なる取組を期待する。</p>
<p>令和2年度 （令和元年度の実績評価）</p>	<p>第2期中期目標期間の2年目となる令和元年度の業務実績に関する全体評価（総括）は、「中期計画の達成に向け、全体として計画どおり進んでいる。」とする。</p> <p>年度計画で定めた数値目標は一部未達成であるものの、技術相談、試験・分析等において、法人化以降、過去最高の件数となり、市内中小企業の課題解決に寄与するなど、下支えに大きな役割を果たすとともに、研究開発や共同研究・受託研究についても、意欲的に取り組んでいる。また、第2期中期目標において掲げたいずれの課題に対しても、速やかに取組を開始しており、大項目評価が全ての項目で「評価4 中期計画の実現に向けて、計画どおり進んでいる。」と判断したためである。</p> <p>特に、研究開発では、新酵母「京の恋」の開発に成功し、市内の酒造会社から同酵母を使用した日本酒の製造・販売が開始されたことに加え、美術館に收藏されている能装束のデザインをデータベース化し、容易に検索ができる「デザイン検索システム」を構築し、市内のものづくり企業4社と共同で、アロハシャツ、がま口、クッション、風呂敷等のライフスタイル商品を開発するなど、市内企業への研究成果の普及もみられる。</p> <p>また、情報発信については、「産技研公式Facebook」の開設、テレビCM等への出演、産技研アドバイザーとの連携によるテレビ出演を通じた広報活動など、</p>

	<p>新たな広報媒体を活用し、多角的に情報発信を行った結果、産技研の更なる認知度向上につながった。</p> <p>今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化することが予想される中、業界の声を丁寧に聞き取り、課題等に迅速かつ柔軟に対応することを期待する。</p>
<p>令和3年度 (令和2年度の実績評価)</p>	<p>第2期中期目標期間の3年目となる令和2年度の業務実績に関する全体評価（総括）は、第2期中期目標において掲げたいずれの課題に対しても取組を進めており、全ての大項目について「評価4 中期計画の実現に向けて、計画どおり進んでいる。」と評価していることから、「中期計画の達成に向け、全体として計画どおり進んでいる。」と判断する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、年度計画で定めた数値目標は一部未達成であるものの、社会活動の制約に対応するため、技術相談、試験・分析等の実施方法を郵送受付等に変更することで、顧客満足度調査では、いずれの小項目においても高い水準を維持しており、市内中小企業の課題解決に寄与するなど、下支えに大きな役割を果たしている。知恵産業の推進に関しては、技術の実用化・商品化の件数が法人化以降、最高件数となり、企業間のマッチングや情報発信・販路開拓の支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p>特に、研究開発では、日本酒を初めて飲む外国の方向けに、京都酒造工業研究会会員企業とともに、産技研が独自開発した「京都酵母」を使用した商品を開発するとともに、「京都酵母」のロゴマークを作成し、商標出願を行うなど、海外を含めた日本酒ブランドの強化に取り組み、「京都酵母」のブランドイメージの向上につながった。</p> <p>また、情報発信については、「京もの担い手プラットフォーム」のTwitterを新たに開設するなど、各種広報媒体を活用し、多角的に情報発信に取り組むなど、産技研の更なる認知度向上につながった。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が予想されるが、ウィズコロナ・ポストコロナ社会に対応した市内中小企業の下支えを行うとともに、企業のニーズや業界状況等をしっかりと把握し、課題等に迅速かつ柔軟に対応すること、また、京都市の危機的な財政状況を踏まえた更なる財務運営の効率化や自主財源の確保に向けた取組を行うことを期待する。</p>